

雨も楽し 笑顔で完歩



東郷池の景観を楽しみながら元気よく歩くウォーカー
15日、湯梨浜町藤津

おもてなし、ウォーカー癒やす

平成25 6.16

倉吉市の倉吉パークスクエアを発着点に15日に開幕した「第13回SUN・IN未来ウォーク」では、全国各地から参加したウォーカーたちが倉吉市と湯梨浜町を巡る3〜40キロのコースを元気よく歩いた。雨が降る「いま一歩」なコンディションだったが、大会スタッフのもてなしでコース上には笑顔があふれた。



遠藤公章実行委員長の「よっこし鳥取へ」の宣言で開幕。山田修平大会長が「雨もまた楽し」と全国から集ったウォーカーに呼びかけ、石田耕太郎倉吉市長や大会ボランティアらが「いつてらっしゃい」と温かく送り出した。

長距離コースに参加したウォーカーは、風光明媚な湯梨浜町の東郷池や日本海などの景

色を楽しみながら歩き、初心者でも完歩しやすい3〜10キロコースでは親子連れらが漫画「遙かな町へ」の舞台となった白壁土蔵群周辺など市街地をウォーキング。それぞれのペースでゴールを目指した。20キロコースのゴール、40キロコースの休憩地点となる同町の中国庭園燕趙園前では、東郷池で採れたシジミを使ったしじみ汁が振る

舞われ、ウォーカーの体と心を温めた。ゴール地点では、学生ボランティアが「お疲れさまです」と完歩したウォーカーをやさしく迎え入れ、足の疲れ解消にと設置された足湯に漬かるウォーカーは「気持ちいい」と表情を緩ませていた。全国各地のウォーキング大会に参加している山口県山陽小野田市の高津清一さん(63)は「駐車場が少ない大会もあるが、未来ウォークは駐車場が確保されていていい。コースも程よいアップダウンがあり、運動になる」と話していた。